

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572108645		
法人名	バンドーケアポート株式会社		
事業所名	グループホーム バンドー北欧の里		
所在地	秋田県北秋田市下杉字上清水沢15-1		
自己評価作成日	令和3年10月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和3年11月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム理念である「住み慣れたこの地域で笑顔絶やさずいきいきと」を心がけ、ホーム内の明るい雰囲気作りに努めている。又、ホーム行事の計画などは「馴染みの場所」等を話題に、入居者の皆さんと相談しながら計画をし全員参加型の実施に努めている。地方新聞や市の広報を定期的に取り寄せ、地域の情報に触れていただきながら、話題の繁栄や共通化に繋げられるよう活用している。全介護従事者が1・2名の入居者様を受け持つ「受け持ち制」をとっており、持ち物の管理・居室の整理整頓を心がけカンファレンスの際は受け持ち介護員が中心となり、ケアの方針を決め充実したモニタリングに努めている。管理者が認知症ケア専門士の資格を有しており、認知症ケアに対する理解を深めて行けるように情報共有を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の状態をきめ細かく観察して検討と実践を繰り返し、利用者の思いに寄り添いながらより良いケアに繋げていくことができるよう努力しています。外出を制限せざるを得ない状況が続き、地域行事に参加する楽しみや刺激を受ける機会がなくなりましたが、コロナ禍においても職員の熱い思いでホームでできることを増やして日常を維持できるよう取り組んでおり、企業理念及びホーム理念の実践を感じ取ることができます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	企業理念の「親孝行」を基に、事業所理念を「住み慣れたこの地域で笑顔を絶やさずいきいき」と掲げ、カンファレンスや申し送り時(申し合わせ)に職員の意識を高めている。	理念の意味を共有し、日常の支援に活かせるよう取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染予防の観点から、地域に出向いたり交流を行う事は困難な状況であるが、収束した時には、交流を再開していく。	運営推進会議のメンバーである駐在署員が声をかけてくれたり、野菜を届けてくれる方もいます。法人グループの通信を運営推進会議メンバーに配付し、地域の事業所としての情報発信を続けています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	管理者を中心に事業所が「認知症高齢者見守りネット事業」に登録しており、「一人ひとりが見守り隊」の協力委員となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防の為、奇数月の第3木曜日に紙面会議を開催し、議事録を委員の方々に郵送してご意見等アドバイスを頂き、参考にさせて頂いている。運営会議委員の方々に議事録を郵送し情報を共有している。	会議メンバーに資料を送付して意見をいただき、議事録としてまとめています。書面上の会議ではありますが、意見の引き出し方に工夫し、会議をサービスの向上に活かすことができる取り組みを期待します。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政の担当者とは、メールや電話で連絡を取り連携を図っている。	行政からの連絡はメールで配信されています。手続きに出向いたり、不明点を電話で聞く等して良好な関係性を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ対策委員会を発足し3ヶ月に1回会議を開催している。年2回は内部研修を行い、身体拘束に対する知識を高め、職員への周知の徹底を図っている。	委員会、研修で職員への周知が図られています。業務中に職員自身が行動を振り返って話し合うこともあり、意識向上に繋がっています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年1回の定例学習会に取り組み「虐待となる具体的な行為」を熟知する大切さを、カンファレンスや申し送りの際に確認している。又、職員が必ず目にする場所へ「虐待」に関する掲示を行う事で、職員への周知の徹底に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回の内部研修を行い、職員への周知を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行う事でご理解を頂いている。不安な事や不明点はその場で説明する事で納得して頂き、同意を得ることが出来ている。改定時には直接連絡、説明する事でご理解が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルス感染予防の観点から面会制限している為、ホームだよりにて近況報告を行い、利用者様の状態をお知らせする事で、ご家族に安心して頂いている。毎回お手紙を頂くなどご意見やご要望を頂けるようにしている。利用者とはお一人ずつ会話をしながら思いを伺ったりしている。	これまでと同様に面会事や電話で家族の話聞いています。報告書送付時にスナップ写真と職員のコメントを同封して意見を出していただいたり、運営推進会議での意見を運営に反映できるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃より職員の意見は大切にす様心がけ、更に月一回のカンファレンスでは「連絡事項・業務検討」の項目を作り、一人一人意見をもらう様にしている。代表が来所する事もあるが、その他本部職員参加のリーダー会議で検討した内容を代表に報告してもらっている。	毎月の会議で職員の意見を聞くことができます。職員は日頃から気付いたことを管理者に伝え、業務内容の検討、改善を行って利用者の思いや現状に沿った支援となるよう取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職員の処遇改善を行い職員のスキルアップを心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修(カンファレンス含む)を月1回行い「知識・技術」の向上を図っている。また、全職員が入居者1、2名の方を担当する、受け持ち制をとりいれている。学習会においては職員自らの自己評価と管理者評価を毎月記録し残している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表は管理者が地域の介護に関わる委員会に参加する機会を多く持たせるよう取り計らっている。又、職員は介護従事者の自覚を持ち日常的に地域の方々との交流に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者はサービスを導入する段階で家族、担当ケアマネージャーよりお話を伺った情報から、センター方式でアセスメントをし、職員と情報を共有する為のモニタリング・更にプランを準備し、入居と共に即プランが実施できる様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居希望の意向の確認を取らせていただく際より、会話で良い関係ができるよう対応している。御本人との面談にはなるべく同席していただき、面談後は御家族様とのお話する時間を作ることで、初期計画に取り入れる内容の聴取に努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係を持っていただけるように「あいさつ・声かけ・スキンシップ」など本人の好みを掴み係られるようにしている。又御本人の能力ややる気に合わせた共同作業なども心がけている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御本人の様子については毎月近況報告を送り、日常生活の様子等お伝えしている。ホーム行事については新型コロナウイルス感染予防の観点から御家族への案内を控えているが、収束時には再開する。バンドー通信や運営推進会議の議事録なども御家族に郵送し情報共有に努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医への通院を継続する事で馴染みの関係を継続できる様に配慮している。通院中の待ち合いでの知り合いの方との交流も大切にしている。地元の美容師の訪問を受けている。	コロナ禍においては通院が知人と交流できる良い機会になっています。家族とは電話を通じて関係継続の支援に努めています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	作業やレクリエーション・行事参加をお誘いしながら「共有できる事」に努めている。又その作業が直接他者への支援になるようなこと(下膳・テーブル拭き・洗濯もの運びなど)を行い、お互いに支え合いながら生活が送れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移動された方の移動後の状況を伺ったり、お困りの事がないかなど必要に応じて連絡を取っている。退去時に御家族様へも今後も遠慮なく御相談していただける事を伝えており、その後のお付き合いも継続している方がいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中から、ご本人の好きな事や興味のある事などをさりげなく伺い、希望していただけるようにしている。又、困りごとや体調についても会話や表情などから伺えることもあり、気にかけて対応している。	利用者とのコミュニケーションをとることを心がけています。レクリエーションや入浴時等、日常生活の中で意向の把握に努め、利用者の小さな変化を管理者に伝えて情報交換がスムーズに行えるよう取り組んでいます。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前から居宅支援事業所・御家族との連絡を密にとり、御本人の情報収集に努めている。早めに入居時の「個人情報」を作成、アセスメントをもとに御本人が希望されている内容が把握ができるように努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人が穏やかに過ごされているかを、会話や食事摂取量・睡眠・排泄状況・バイタルチェックなどで把握に努めている。毎日の申し送りやショートカンファレンスでの個人の状況把握も大切にし、日々の変化に気をつけ変化があった際は、即適切な対応ができる様に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の御意向を取り込んだ計画作成に取り組んでいる。カンファレンス時にはモニタリングに沿って問題点などの意見や情報をいただきながら介護計画に反映できるようにしている。	カンファレンスで担当職員を中心にして全職員が意見を出し合い、現状に沿った介護計画を作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	「暮らしのシート」記録の内容の充実を図り、業務日誌での継続した関わりの必要な事柄が伝達され、職員全員が情報を共有できる様に努め、実践・計画の見直しに生かしている。更に、ファイルの内容の充実にも努め、管理を厳重にしながらも職員が見やすい場所へ保管をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通常では、地域の行事参加を心がけ、又、運営推進会御参加の皆様からの御意見や行事参加をいただき、交流の機会を沢山持つことができている。医療機関との関わりも強く、本人・ご家族の意向を考慮した相談がしやすいようになっている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医師の他に、協力医療機関として内科クリニック、歯科医との契約が取れており、薬局においても地域薬局と近所の薬局、二か所と連携がとれている。医療機関との連携が取れている事で、本人・家族が相談がしやすいような環境を作っている。	入居前からの医療機関で職員の介助によって継続受診しています。歯科は協力医で受診し、薬局との協力関係もできています。検査結果については家族に随時報告しています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が准看護師であり、日常的に観察やケアを行い、適切な受診の判断等支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院と共に医療連携室との連絡を密にすることで、安心した治療や退院後の不安がないような対応を行っている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医療機関の内科医師との連携が柔軟にとれることにより、重症化した場合や看取りに関する指針を定めている。更に看取りに関しては医療機関、御家族との話し合いを十分持ち方針を共有している。職員間でも高齢者に起こりうる急なことも含め学習に取り入れている。	医師の確保ができないことから看取りには対応していません。系列事業所間のリーダー会議で利用者の情報を共有しており、法人内で対応、或いは特養の申請を勧める等、状態の変化に応じた支援が行われています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者中心に対応しているが、不在時も正しく適切に情報を報告し指示をもらえるように「報告マニュアル」を活用している。応急処置の仕方を習得するため、内部研修により知識を習得している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災ラジオの活用や年2回の避難訓練を実施し、職員一人ひとりの意識を高めるように努めている。現在は新型コロナウイルス感染予防の観点からご家族や地域の方の参加は見合わせている。	前回の駆けつけ訓練の問題点を踏まえ、再度実施することになっています。隣接する企業の協力が得られることになっていますが、夜間の有事の際の協力体制が課題となっています。	非常口が内側から解錠できない状態を解決すると共に、夜間の職員が少ない時間帯の協力体制について運営推進会議を活用する等して対策を検討されることを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人お一人の特徴や好みの声かけ・言葉遣いを心がけながら1対1での会話を持ち、思いを尊重している。又、個人情報の保管・管理を厳重にして個人情報保護も留意している。	不安そうな様子が見られる時はさりげなく居室に誘って話を聞き、排泄の失敗にも配慮し、その時のその人の状況に合わせて寄り添った支援を実践しています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話しやすい存在であるために、安心できる人間関係の構築を目指し努力している。何より本人の理解度に合わせた係わりが大切と考え、否定的なやり取りや押しつけるようなことのないようにしており、衣類の選択・調味料の好み等も伺う様になっている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝・起床・食事・ティータイム・おやつ・入浴など一応決まった時間帯でお誘いしているが、御本人の都合や希望次第では時間移動や変更も可能としている。他行事や作業・レクリエーション等も内容をお伝えしながら伺い、無理のない参加をして頂いている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御自身の望む事を叶えられるように努めている。(目的や季節に合った衣類の選択含め)外出時には帽子やバッグの使用も声掛けしている。起床時・就寝時に保湿クリームや乳液をつける方には切らさない様に考慮している。洗面所にヘアブラシも常備している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節行事やイベント時には好みなどを伺いながら楽しんで頂けるように配慮している。また、食器やホールの環境などを工夫し、季節を感じながら食事をして頂けるようにしている。	利用者の力を活かす機会が少なくなっていますが、お菓子作りを手伝っていただいたり、差し入れの野菜の調理法を話題にしたり、また、園庭で食事する機会を増やして楽しみに繋げる工夫をしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の栄養士にカロリーチェックを含め一週間分のメニュー(写真付き)と食材の種類や量を提出し評価アドバイスをもらっている。更に毎日の食事や水分の摂取量をチェックし記録している。月一回及び必要に応じて体重・BMIの測定など行っている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施を行っている。義歯は每晚入れ歯洗浄剤を利用し、清潔が保てるように配慮している。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握する事で時間でのトイレ誘導を行っている。失禁や失敗の時はさりげなく対応する事で、本人の自尊心を傷つけない様に配慮している。	トイレでの排泄を基本に支援しています。チェック表を有効に活用し、状態の改善に繋げる努力をしています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	習慣的な「便秘」に関しては医師との相談で緩下剤を処方頂き、排便の状況に合わせて柔軟に量の変更をし調整している。経口的には「野菜・水分・果物・牛乳」等を取り入れる様にしている。腹部のマッサージや毎日の廊下散歩等もお勧めしている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日を設けているが入浴日以外には足浴をしている。受診や面会・御本人の希望に合わせて便宜行っている。又、適宜陰部洗浄も行い、発汗の多かった日などは入浴やシャワー等お誘いしている。	就寝前の足浴を入浴日以外に行い、冷えを防ぐ対策をしている他、拒否する方にはタイミングを見計らって誘導しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後30分以上は横にならない様に心がけているが、昼午睡・居室で過ごす時間・就寝時間など御本人の希望に合わせて自由にして頂いている。夕食終了後、就寝を希望される方が多いので、御本人の行動に合わせて就寝準備などしつつ、ホールで眠くなるまで過ごす方にはお付き合いするなどしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の情報はファイルに綴っている。その薬効や副作用など記載されており常時職員は見られるようにしている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	天気に合わせての中庭散歩、山菜取りやその下処理・地域の行事への参加等、その方の興味ある内容を探りながら関わっている。屋内でのレクリエーションやアクティビティにも皆で参加できる内容を加味し行っている。通院時には帰所前にドライブにもお誘いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御自身から外出を希望される方はホーム庭の周辺散策をお誘いしている。通院時のドライブも大切にしている。新型コロナウイルス感染症が収束した場合には、再度外出の機会を設けていく。	通院が個人的な外出の機会となっていることから、広い空間が確保できる公園に出かけたり、園庭で食事する機会を増やす等して外気に触れる時間をつくり、少しでも気分転換できるよう工夫しています。	
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方はいない為、現在は管理者がお預かりしている。その中から通院や消耗品の他、御本人のご希望の物を購入している。御本人と出かけた際など、少額であれば見守りながらレジで支払う体験などして頂いている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御希望に合わせて通信援助をしている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下・居室の床下には備長炭が敷き詰められ消臭効果が期待できている。湿温度計に添った温度の維持、常時加湿器や空気清浄機を稼働している。季節折々の行事に合わせて「切り絵」の張り物や他飾り物など工夫し話題にしたり、季節や行事に合った手習いも行ったりしている。日中多く過ごされるホールの環境作りには特に心がけている。	季節の飾り物を利用者、職員と一緒に準備してホールに飾り、終了した飾り物は玄関ホールに移して家族の来訪時に紹介しています。職員が温度湿度を確認、調整し、利用者が快適に過ごすことができるよう環境を整えています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	正面玄関や裏の出入り口の長椅子等も、暖かい時期は外を眺めながらの憩いの場所となっている。長い廊下を利用し散歩を楽しんで行っている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご希望の物はいつでもお持ち頂けるようにしている。テレビのアンテナラインも各室引かれており、希望される方は視聴する事ができる。位牌や遺影など持参されている方もいる。	ベッドは本人の状態に合わせて設置されています。収納スペースがあり、きれいに整理整頓された部屋で過ごすことができます。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所・浴室は分かりやすい様に表記し、居室入口にも自分の部屋と分かるように、ご希望に合わせて写真や名札をつけている。場所が分からない方には自尊心を傷つけないように、覚えて頂けるような誘導を心がけている。		